

くさしぎ便り No.1

2012年11月15日発行

はじめまして! くさしぎ便りNo.1をお届けします。

ちょっと、どきどき、ちょっとわくわく。

これからも、「くさしぎ」からいろんな情報をお届けします。

「あきる野っぱら 学びの場 その1」 ご報告



「福島原発事故と放射能/ あきる野で動いて見えて きたもの」

つじよしこ
話題提供者 **辻淑子さん**

10月4日(木)、「あきる野っぱら 学びの場 その1」を開きました。話題提供者は辻淑子さん。2000年に「川原で遊ぼう会」を発足させ、平井川の環境保全活動に関わってきました。その体験をもとに昨年の福島第1原子力発電所爆発事故以後は、友人たちと「さよなら原発~にしたま~」「チャイルドのネット(放射能汚染から子どもを守るあきる野ネットワーク)」を立ち上げ、市に陳情書を出すなど、活発に活動していらっしやいます。活動して何が見えてきたのか?…お聞きしました。



タイへ避難? 大阪へ避難?

私が行政と関わりを持ち始めたのは、子どもたちと川遊びをしながら、環境を守る活動をしたいと思い、友人3人と「川原で遊ぼう会」を立ち上げた時からです。それから市と協働での活動を組んできました。

しかし、昨年の3月11日以後は、もっと止むに止まれぬ思いで、市役所に足を運ぶようになりました。昨年3月11日、東北地方で起きた大地震とそれに伴う津波は日本中を震撼させました。そして、その最中に、福島原発が12、15日と爆発事故を起こし

ました。予断を許さない深刻な状況、不安にさいなまれる日々が続いたにもかかわらず、政府の対応は「すぐに健康に影響はない」という発表をくりかえすのみで、国民の生命や健康を守ろうとする誠実なものではありませんでした。当時のやるせない思いを思い出します。

我が家でも最悪の事態を想定し、以前から交流のあるタイに避難しようかとか、子どもたちを大阪に転校させようかなどと家族で真剣に話し合いましたが、どちらも子どもたちからは反対され、避難することの難しさも改めて感じました。その間も放射能を帯びた雲が東京上空を通過し、それが雨で落ちて、葛飾区の金町浄水場の水道水から放射性物質が検出されるなど不安な日々は続きました。さらに今後への不安を増幅したのが、計画停電でした。



「何かしないといけない」

4月に入って最悪の事態は免れたのではという段階になった時、今、ここで自分は何かをしないといけないという強い焦燥感にかられました。

そこで、日の出ごみ処分場問題に取り組んでいるAさんに相談し、「さよなら原発〜にしたま〜」を友人たちと立ち上げ、5月に、「丸木美術館の理事長」であり、「チェルノブイリ子ども基金の理事」でもある小寺隆幸さんを招いて、最初の脱原発集会を開きました。以後、2カ月に一度、講師を招いて放射能について学び、また参加者の声や気持ちをお互いに聞き合う会を開いてきました。

また、6月に国立市で行われた脱原発デモに参加したところ、小学校で顔見知りの保護者と出会い、それがきっかけとなって「チャイアのネット」という組織を立ち上げました。そして「市内の空間放射線量や市内に出回っている食品の放射線量を知り、子どもたちを被ばくから守りたい」という親の切実な思いを活動に組んでいきました。

また同じ思いで不安を抱えている親たちとつながり、また福島の子どもたちともつながる活動も目標にしました。



市役所や市議会に通う

7月に入っただけで、「チャイアのネット」の仲間たちと市役所を訪問し、市内の空間線量、とりわけ校庭や園庭などの線量を定期的に計測し、線量が高い所は除染してほしいこと、内部被ばくを防ぐために、食品や給食の線量を測定し公表してほしいこと

を要望しました。この時は関係部署の課長さんが揃って対応してくれました。

さらに8月には、①給食の食品の放射線量を測定し、市のHPで公開する ②消費者庁による放射性物質検査機器の貸与制度を利用し、市民が利用可能な放射能検査体制を整える の2点を議会に要望して陳情しました。メンバーで手分けして他市の対応を調べ資料も添付しました。結果は「趣旨採択」で、すぐに実施するわけではないが、不採択でもないというものでした。

市独自の方針が見えない行政？

本質的な議論をしない議会？



こうして市役所や議会の傍聴に足を運ぶうち、見えてきたことがあります。たとえば、市役所は「都や国の方針が決まってから」とか「都がやるので」などと言い、私たち住民の生命に一番身近で責任を負う組織でありながら、独自の方針があるようには見えないこと、消費者庁貸与の放射線検査機器の管理が観光商工課になるなど縦割り行政の弊害が出ていることなどです。

加えて、市民の代表として私たちの声を代弁してくれるはずの議会が、会派のかけひきを優先して採決をする、あげ足取りが多く本質的な議論をしていないなど、住民の切迫した思いに応えられていないと感じました。

思いを持つ市民を議会に！



そうした折に、「さよなら原発～にしたま～」の9月集会で、小金井の市議・Kさんの話を聞きました。

Kさんは「政治は市民なら誰もが参加す

る権利があるし、責任もある。誰かにお任せにするのではなく、地域のことはみんなで関わっていこう」と呼びかけました。一気に目の前のもやが晴れて行く気がしました。「どうにもならない」と落ち込むのではなく、自分たちも市政に関わるという方法があるのです。Kさんは、本気で議員を当選させようという市民が10人いれば、それは実現するとも言っています。草の根市議を誕生させ、ともに市民も市政に関わることで、あきる野を住民主体の町にしていけるのではないのでしょうか。了

会場での・やり・と・り

- ・今まで、ひとりぐらい草の根市議が議会に入っても何が変わるのかという思いでいたが、資料をきちんと揃えて陳情した「チャイロのネット」の活動を聞いて、認識を新たにしたい。こういう形で動けば、議会も行政も変わっていくと思う。資料はみんなで手分けして作ればいい。
- ・よく「前々から計画が決まられていて、市民には説明だけ」だったと言われるけど、初めに決めるのは誰なのか。最初の市全体のビジョンづくりからもっと市民に情報提供してほしい。
- ・収束宣言が出されて、原発事故などなかったような毎日だけど、ちっとも終わっていない。
- ・3・11直後の不安な気持ちを思い出し涙が出る思いだった。忘れてはならないと思うし、できることはやっていかなくはならないと思う。
- ・以前、都の開発計画に反対して、正直苦い経験もし、そういった活動はやりたくないと思っていたが、今回話を聞いてもう一度市民として政治に関わってみようという気になった。ひとりといわず、市民目線の市議を続々誕生させたい。
- ・原発を忘れないようにしようと思って、時間をやりくりしながら集会に参加したり、活動をしている。日本は「枠」が狭い気がする。その「枠」に入れない人は、はじかれてしまう。（などなど議論沸騰しました。）

「くさしぎ」の紹介

「くさしぎ」は鳥の名前ですが、「草の根市議」という意味も込め、会の名前としました。昨年の福島原発事故以後、多くの気づきがありました。その中で「今まで私たち市民は、あまりにも政治家に政治をお任せしてきたのではないか」という苦い反省もその一つです。「くさしぎ」はこの反省に立ち、もっとも身近な市政に、私たちの代表の「草の根市議」を誕生させ、その市議とともに市政に主体的に関わろうと呼びかける、あきる野市民の会です。

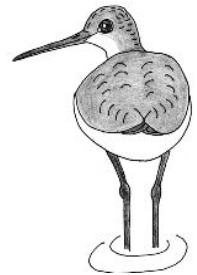
昨年11月からこうした趣旨に基づき、西多摩地区の草の根市議に話を聞いたり、どういふ市議が望ましいか等話し合いを重ねてきました。その結果、市民代表としての「草の根市議」は次のような要件を持つのではないかとイメージがまとまりました。

- ①市民といっしょに市政を考える。
- ②市政の現状と問題点を市民に情報発信する。
- ③開発優先ではなく、環境優先（放射能への危機感を持つ）。
- ④マイノリティの視点をすくいあげる。

以上のような要件を満たす市議を市議会に送り、ともに市の課題を考え、ともに解決していく良き伴走者となりたいと考えています。あきる野市を今以上に暮らしやすい「マイタウン」にできるよう、多くの市民が「くさしぎ」の活動に参加して下さる事を期待しています。

～つながりましょう～

(´_`)/ 「くさしぎ」メンバー募集中 (*^_^*)



「あきる野の放射能汚染が気になる」「給食は大丈夫?」「市の財政はどうなってるの」なんて市政に少しでも興味がわいた方、「くさしぎ便り」を今後も読みたい方、「くさしぎ」のメンバーになりませんか?

市民として楽しく市政に関わりましょう。 **連絡先** email kusasigi@nifty.com



あきる野っばら学びの場 その3

「入れる? 入れない?あきる野保育園事情」

日時：12月20日 午前9時半～

場所：あきる野ルピア3F 会議室

講師：溝口義朗さん(東京都認証保育所ウッディキッズ園長)

どなたでもご自由にご参加ください。お待ちしております!(参加費無料)

おしらせ